

草加市男女共同参画アンケート 調査結果報告書（概要版）

令和7年3月

草 加 市

目次

調査の目的と方法

調査の目的と趣旨	1
調査の方法	1

調査結果の概要

◆回答者属性	2
◆男女平等意識	3
◆仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	4
◆ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力）	6
◆性的少数者（LGBTQ+）	8
◆困難な問題を抱える方への支援	9
◆学校教育	11
◆地域での活動	11
◆草加市の政策決定の場への女性の参画	12
◆男女共同参画推進に関する行政施策	12

調査の目的と方法

調査の目的と趣旨

この調査は、草加市の男女共同参画社会づくりに関して、市民、企業・事業所、市民団体、小・中学生の意識及び実態を把握することで、「草加市男女共同参画プラン 2021」の実績を確認するとともに、次期の男女共同参画基本計画である「(仮称) 草加市男女共同参画プラン 2026 (令和 8 年度～令和 12 年度)」の策定の基礎資料として活用することを目的とし、実施しました。

なお、今回の調査では、男女共同参画社会の実現に向け、次代を担うこども達の意識及び実態を把握するため、小・中学生を調査対象に加えました。

調査の方法

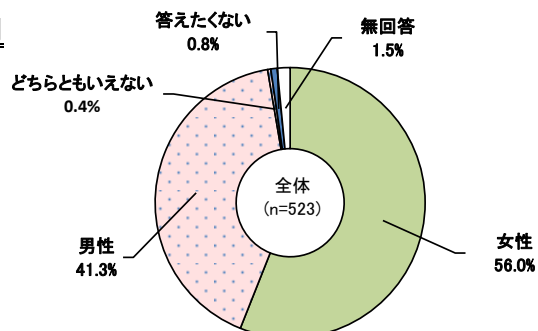
	市民調査	小・中学生調査	企業・事業所調査	市民団体調査
調査対象	草加市在住の満 18 歳以上 (令和 6 年 7 月 1 日現在) の男女 (外国籍市民含む)	草加市内の小学 5 年生及び中学 2 年生 (各 1 校ずつ)	草加市内の企業・事業所 [各企業につき総務人事担当者 1 名及び従業員 2 名 (うち 1 名以上は女性従業員) の計 3 名に回答を依頼]	草加市内の市民活動団体 (町会・自治会含む)
調査方法	郵送配布・郵送回収、WEB フォームによる回答	WEB フォームによる回答	郵送配布・郵送回収、WEB フォームによる回答	市内の公共施設において配布・郵送回収、WEB フォームによる回答 (町会・自治会については市職員が配布・郵送回収、WEB フォームによる回答)
調査時期	令和 6 年 9 月 9 日 (月) ～令和 6 年 9 月 30 日 (月)			
配布数 (A)	2, 000 票	小学生 115 票 中学生 130 票	300 票	200 票
回収数 (B)	523 票	小学生 101 票 中学生 116 票	65 票	111 票
回収率 (B/A)	26. 2%	小学生 87. 8% 中学生 89. 2%	21. 7%	55. 5%

調査結果の概要

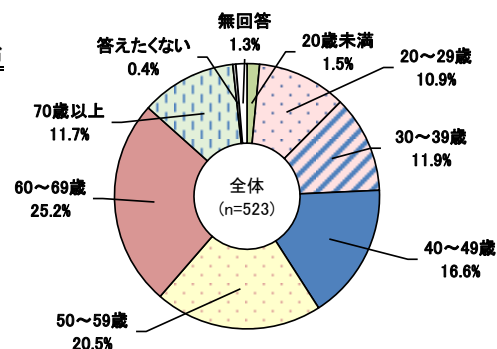
◆回答者属性

<市民調査>

性別

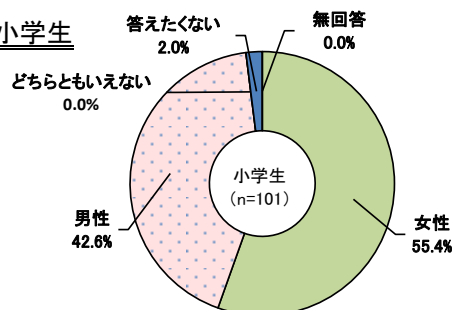


年齢

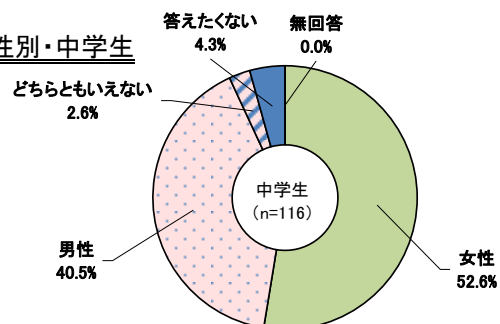


<小・中学生調査>

性別・小学生

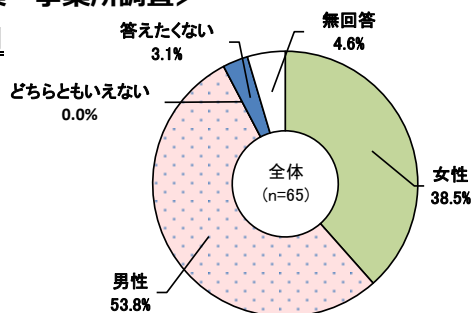


性別・中学生

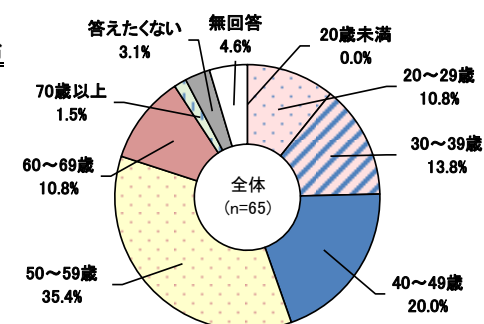


<企業・事業所調査>

性別

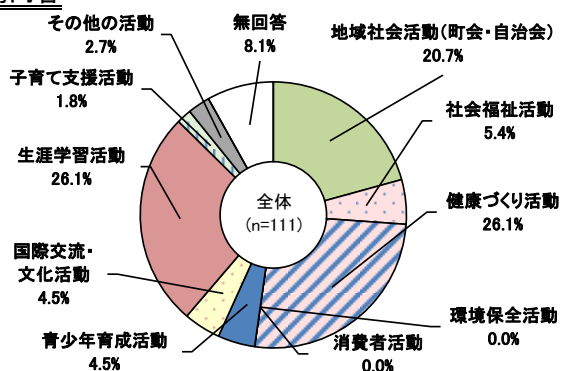


年齢

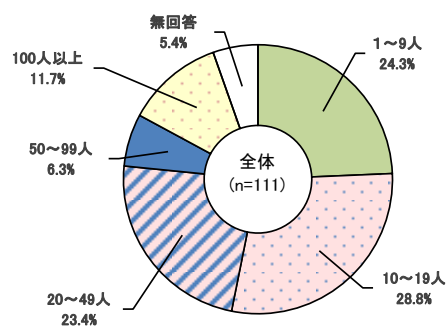


<市民団体調査>

活動内容



構成員数



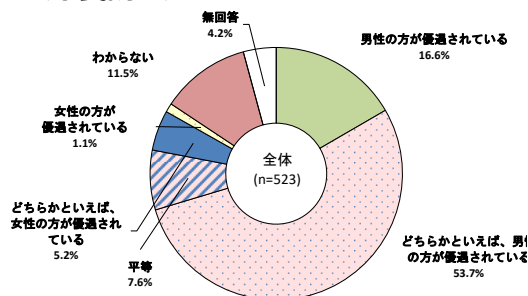
◆男女平等意識

日本社会の男女平等に対する考え

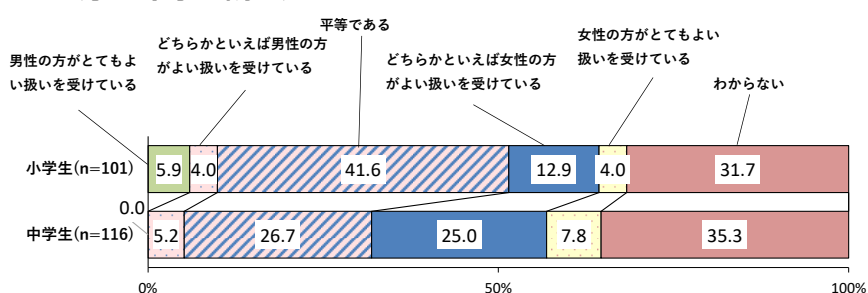
日本社会の男女平等に対する考えをみると、市民調査では、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が53.7%と最も高くなっており、続いて、「男性の方が優遇されている」が16.6%となっています。

小学生については、「平等である」が41.6%と最も高く、次いで「わからない」が31.7%となり、中学生は、「わからない」が35.3%と最も高く、次いで「平等である」が26.7%となっています。

<市民調査>



<小・中学生調査>

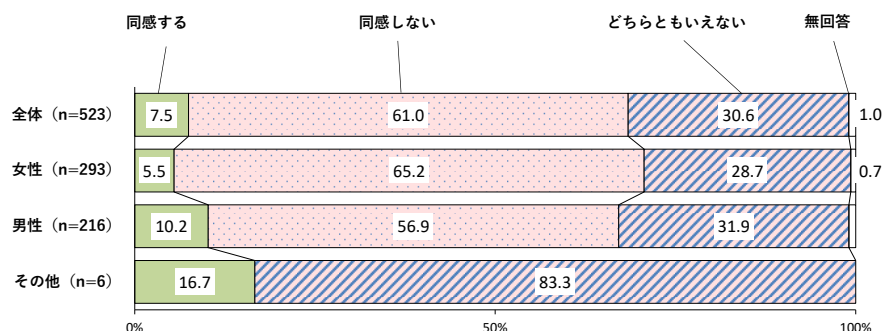


性別による役割分担の考え方

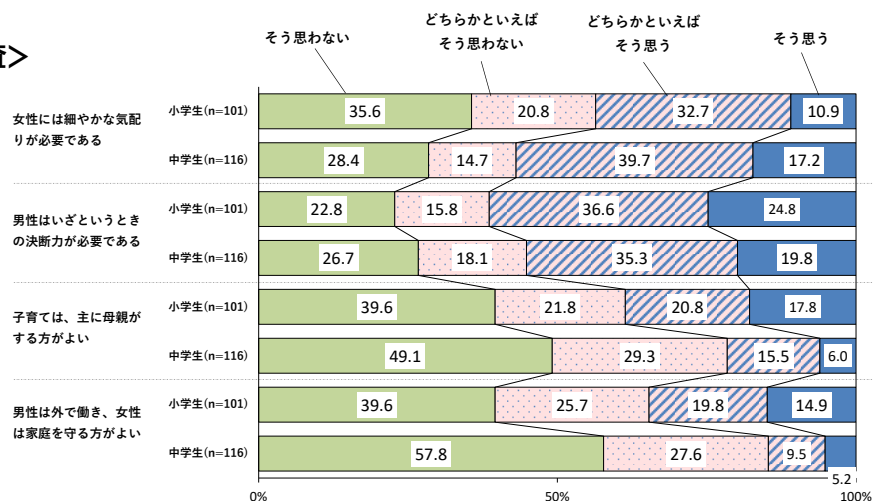
性別による役割分担の考え方についてみると、市民調査では、全体では「同感しない」が最も高く、61.0%となっています。性別でみると、女性では「同感しない」が65.2%で、男性を8.3ポイント上回っています。

小・中学生調査では、男女の役割に対する4つの考え方についてみると、小・中学生ともに、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《同感しない》の割合では、『子育ては、主に母親がする方がよい』と『男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい』が50%を超えています。

<市民調査>



<小・中学生調査>

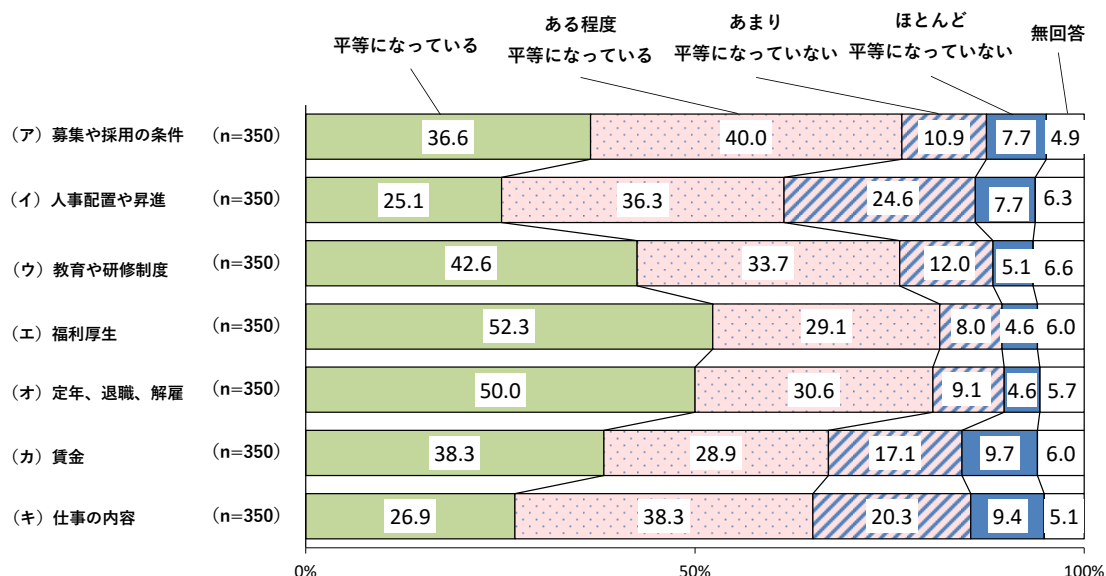


◆仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

職場における男女平等の状況

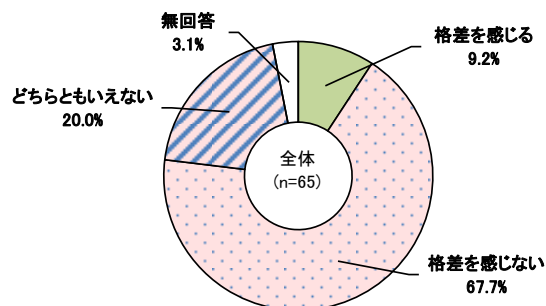
<市民調査>

職場における男女平等の状況をみると、「平等になっている」と「ある程度平等になっている」を合わせた《平等である》は、『(ア) 募集や採用の条件』『(ウ) 教育や研修制度』『(エ) 福利厚生』『(オ) 定年、退職、解雇』について概ね7割となっています。



<企業・事業所調査>

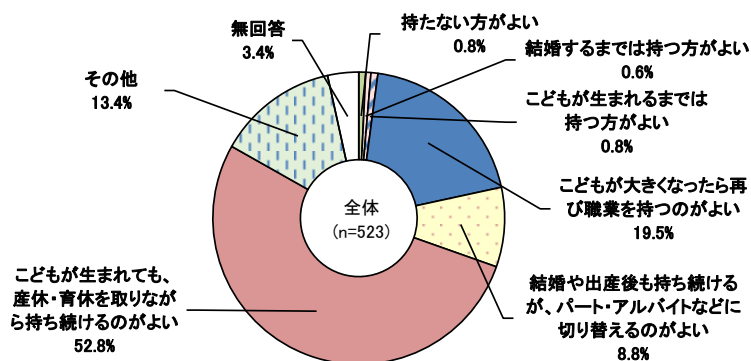
回答者が現在働いている会社（事業所）において、男女格差を感じるかを聞いたところ、「格差を感じる」は9.2%、「格差を感じない」は67.7%となっています。



女性が職業を持つことについての意識

<市民調査>

女性が職業を持つことについての意識をみると、「子どもが生まれても、産休・育休を取りながら持ち続けるのがよい」が52.8%と最も高く、次いで「子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が19.5%となっています。



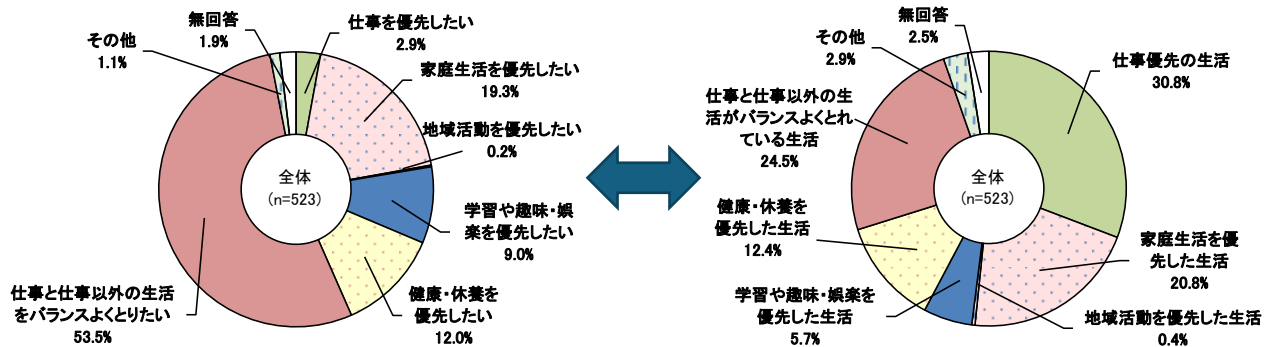
仕事と生活のバランス

仕事と生活のバランスをみると、市民調査、企業・事業所調査ともに理想では「仕事と仕事以外の生活をバランスよくとりたい」が最も高くなっており、現状では「仕事優先の生活」が最も高くなっています。

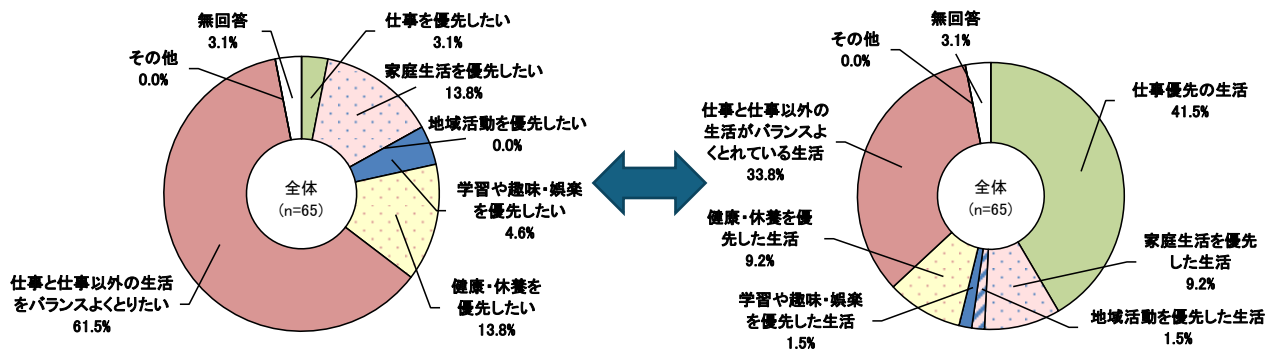
理想の生活

現状の生活

<市民調査>



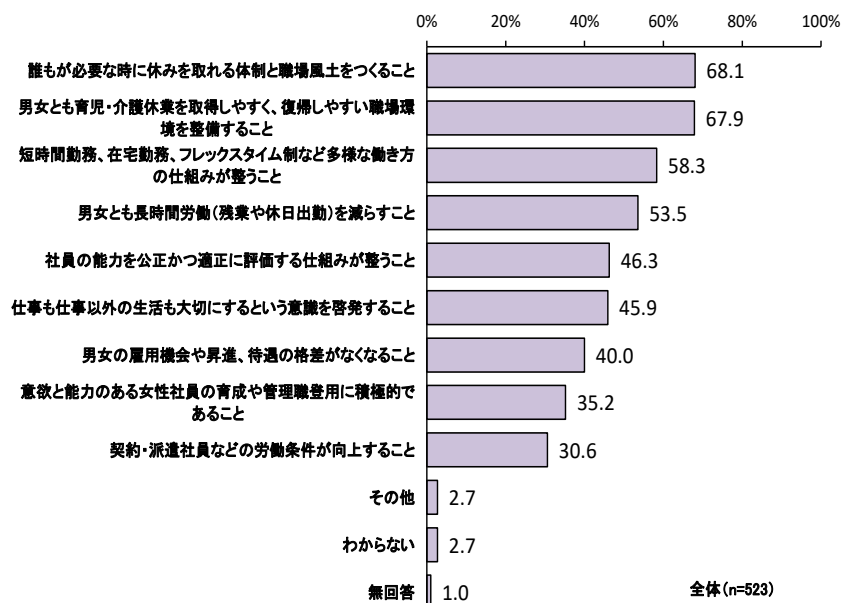
<企業・事業所調査>



男女とも働きやすい職場づくりのために重要なこと

<市民調査>

男女とも働きやすい職場づくりのために重要なことをみると、「誰もが必要な時に休みを取れる体制と職場風土をつくること」が68.1%で最も高く、「男女とも育児・介護休業を取得しやすく、復帰しやすい職場環境を整備すること」が67.9%で続いています。

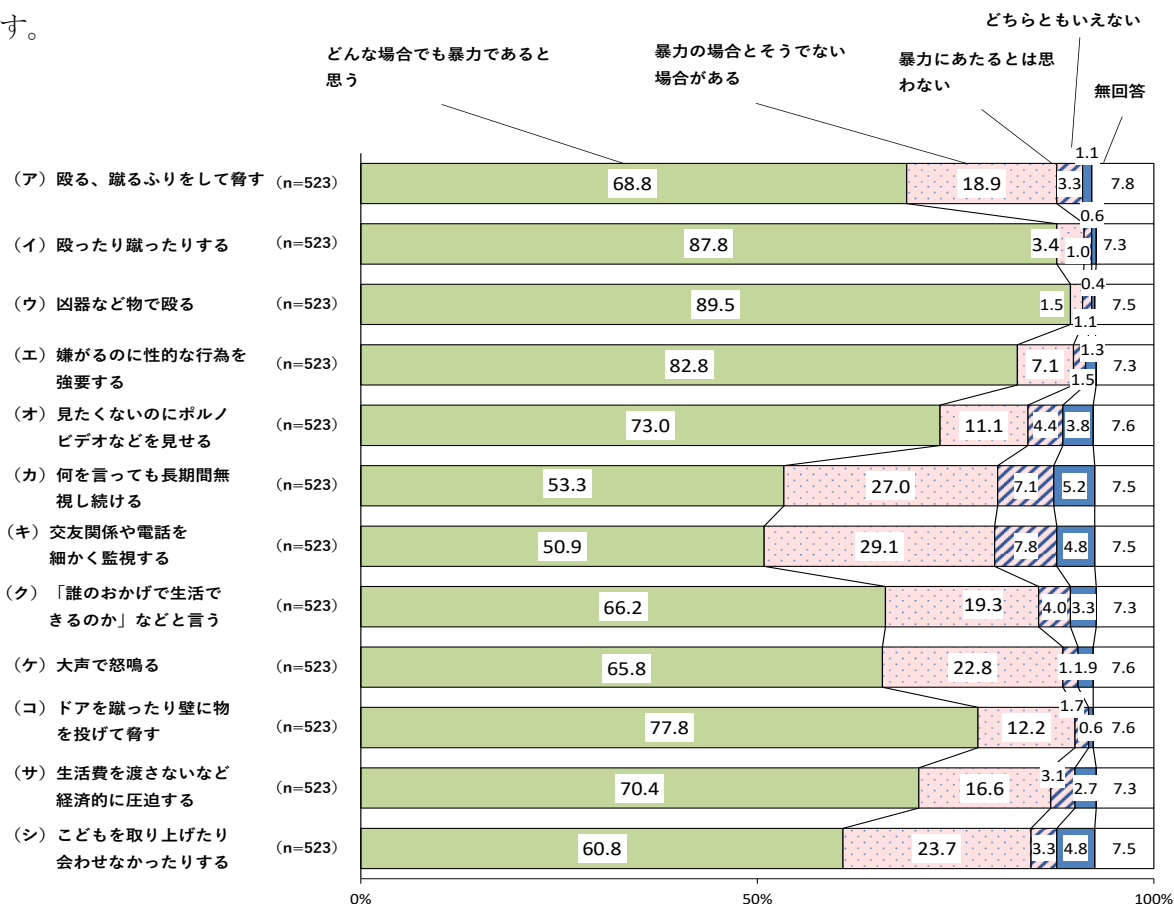


◆ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力）

暴力だと思うこと

＜市民調査＞

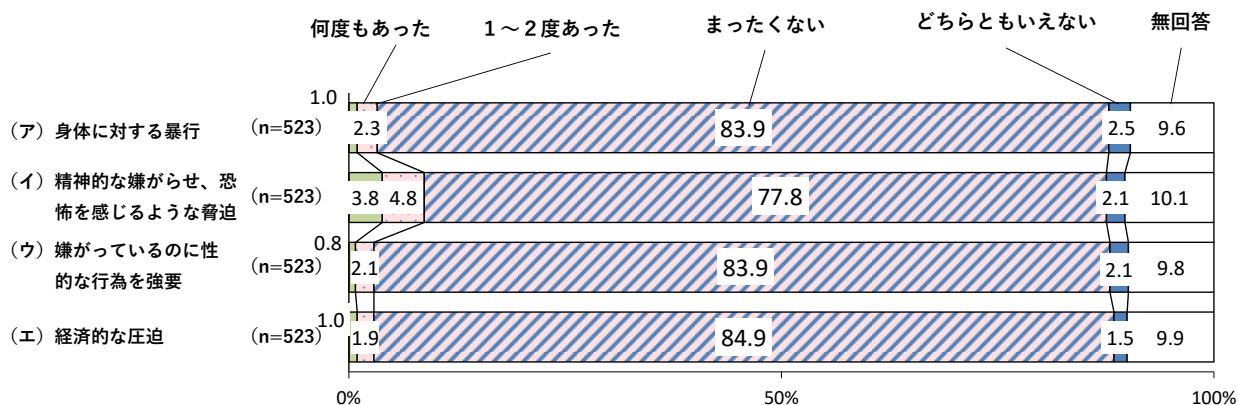
暴力だと思うことについてみると、『(イ) 殴ったり蹴ったりする』『(ウ) 凶器など物で殴る』『(エ) 嫌がるのに性的な行為を強要する』において8割以上が「どんな場合でも暴力であると思う」となっています。



ドメスティック・バイオレンスの被害経験

＜市民調査＞

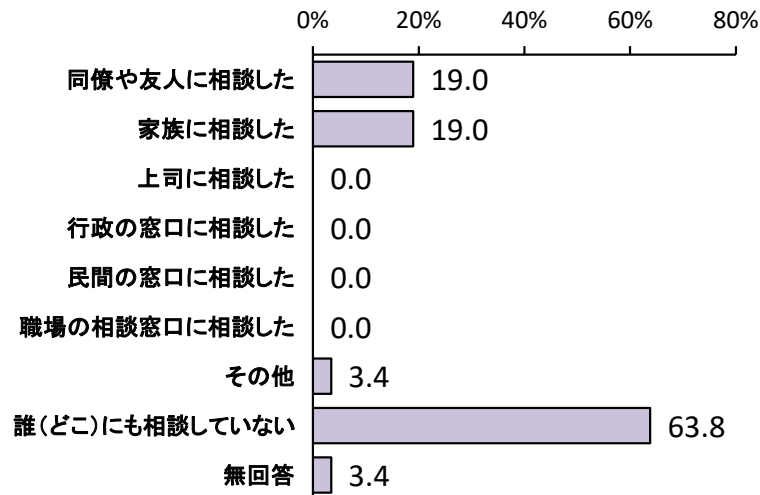
ここ1年間における配偶者や恋人などのパートナーからの暴力の被害経験をみると、すべての項目において、「まったくない」が約8割となっています。しかし、「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた《暴力の被害経験あり》は、『(ア) 身体に対する暴行』で3.3%、『(イ) 精神的な嫌がらせ、恐怖を感じるような脅迫』で8.6%、『(ウ) 嫌がっているのに性的な行為を強要』で2.9%、『(エ) 経済的な圧迫』で2.9%となっています。



ドメスティック・バイオレンスの相談の有無

<市民調査>

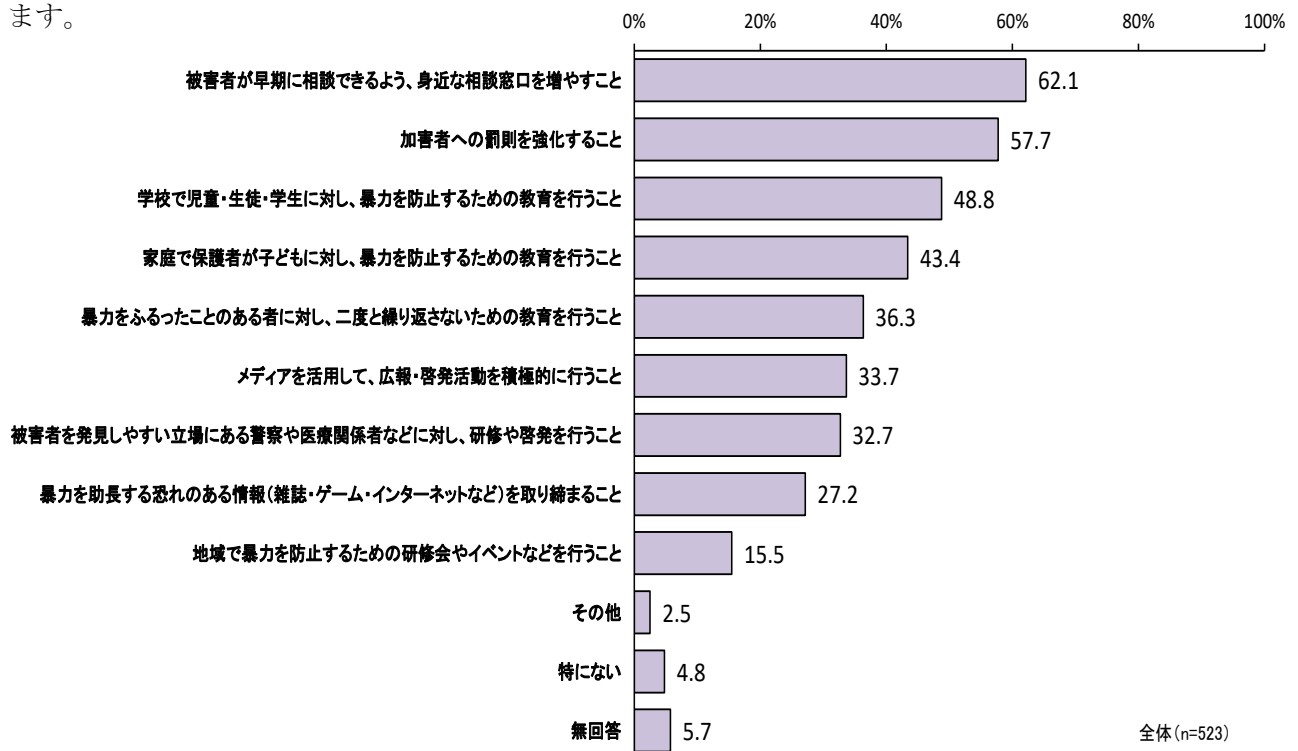
配偶者やパートナーからの暴力の被害経験があったと回答した人に対して、相談の有無をたずねたところ、「誰（どこ）にも相談していない」が63.8%となっています。相談した人については、「同僚や友人に相談した」「家族に相談した」が19.0%で最も高くなっています。



暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策

<市民調査>

暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策をみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やすこと」が62.1%で最も高く、「加害者への罰則を強化すること」が57.7%で続いています。

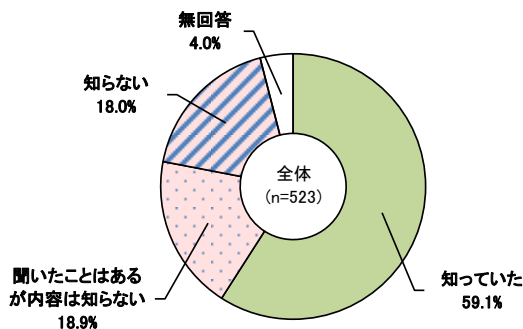


◆性的少数者（LGBTQ+）

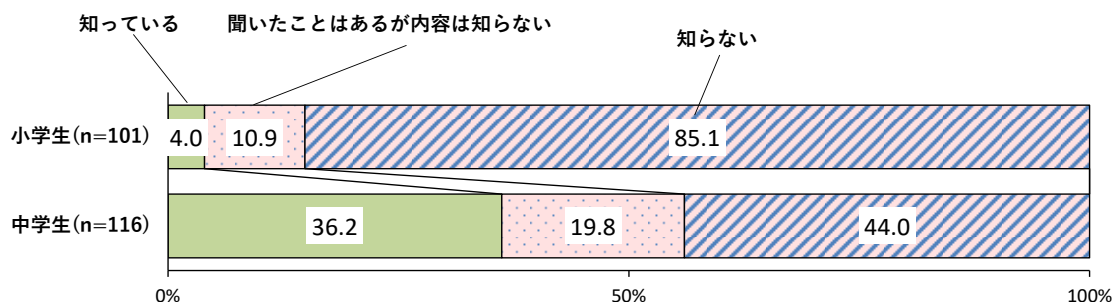
「LGBTQ+」という言葉の認知度

「LGBTQ+」という言葉の認知度については、「知っていた」が59.1%となっています。小・中学生では、「知らない」が最も高く、小学生で85.1%、中学生で44.0%となっています。

<市民調査>



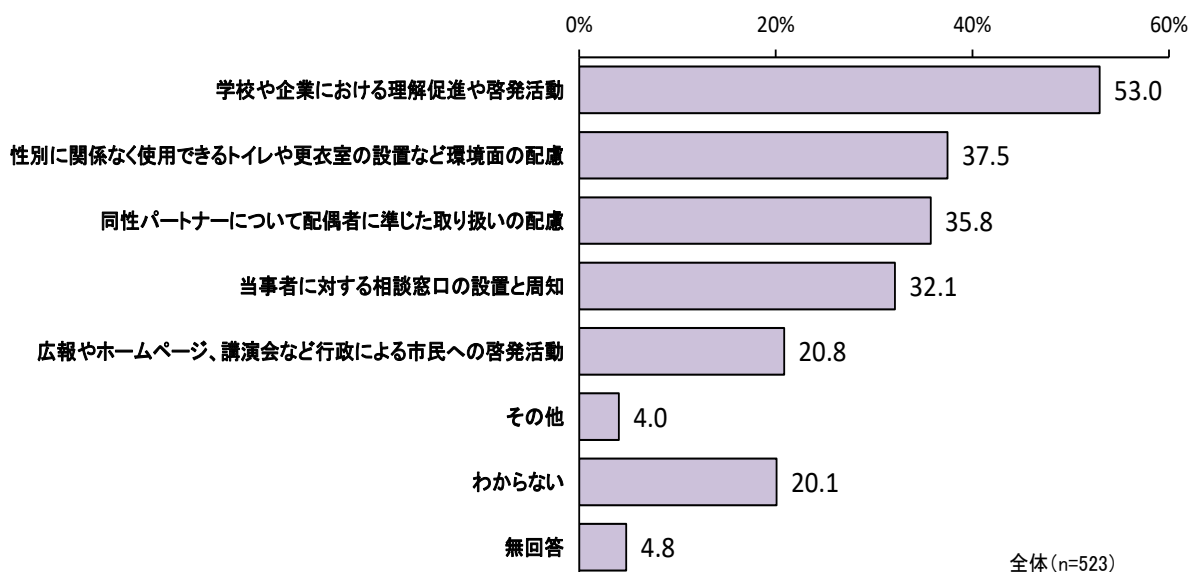
<小・中学生調査>



「LGBTQ+」など性的少数者への支援として必要な取組

<市民調査>

「LGBTQ+」など性的少数者の方への支援として必要な取組をたずねたところ、「学校や企業における理解促進や啓発活動」が53.0%と最も高く、次いで「性別に関係なく使用できるトイレや更衣室の設置など環境面の配慮」が37.5%と続いています。

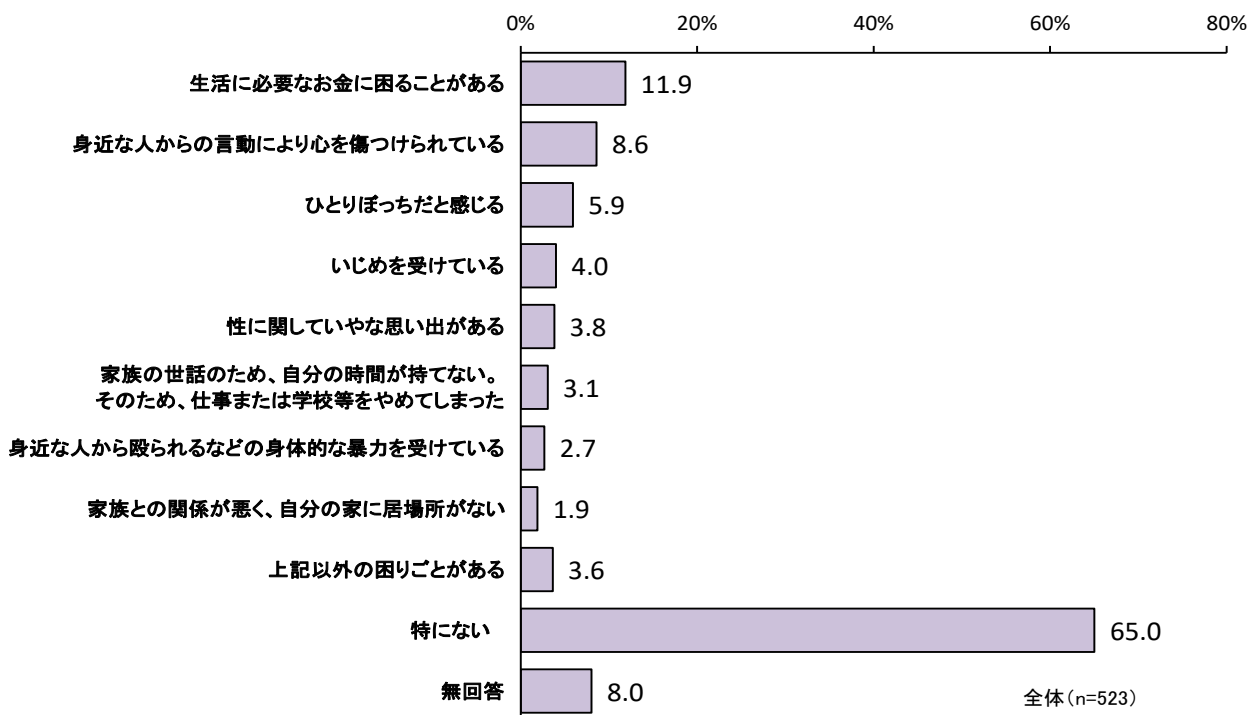


◆困難な問題を抱える方への支援

困っていること、悩んでいること

<市民調査>

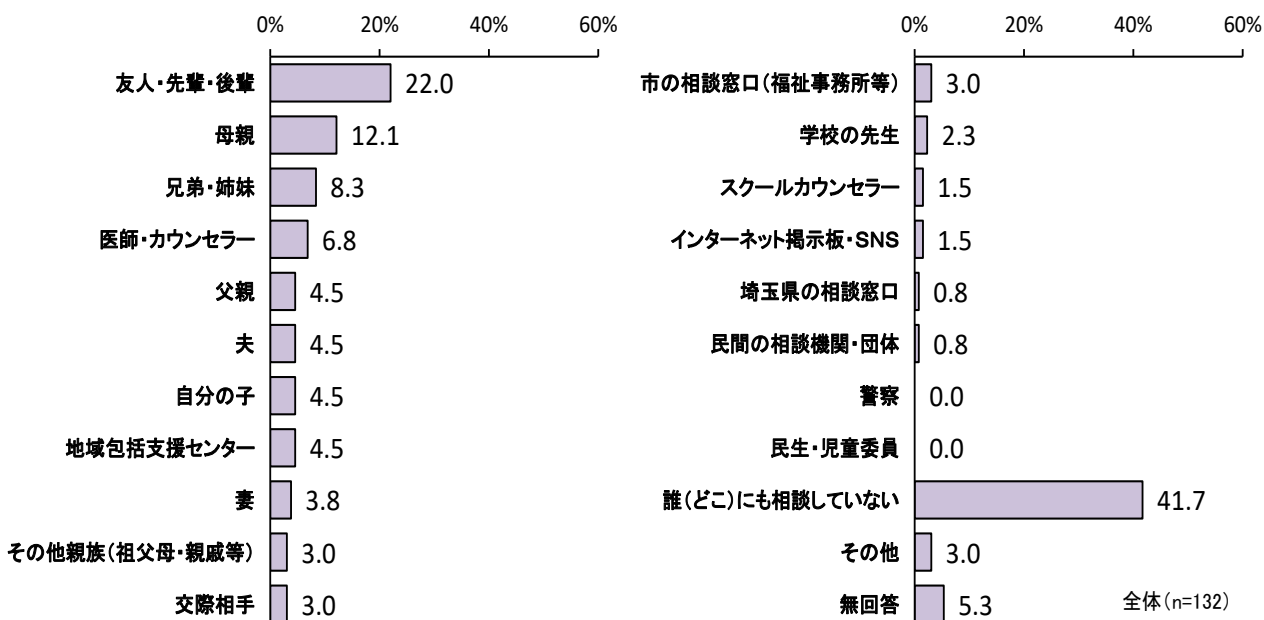
困っていること、悩んでいることをみると、「生活に必要なお金に困ることがある」が11.9%で最も高く、「身近な人からの言動により心を傷つけられている」が8.6%で続いています。



相談相手

<市民調査>

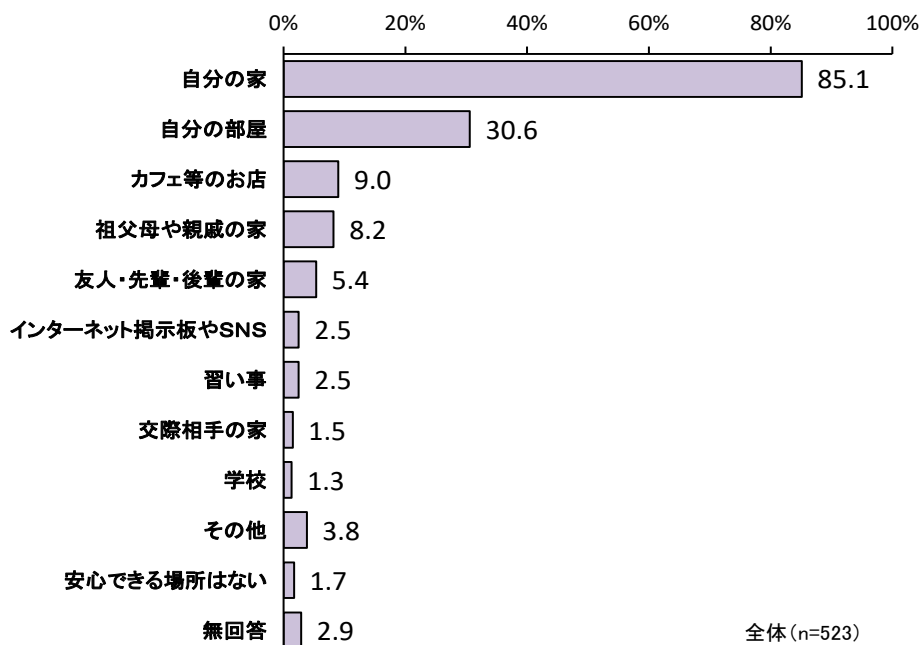
困っていること、悩んでいることがある方に対して相談相手についてみると、「友人・先輩・後輩」が22.0%で最も高く、「母親」が12.1%で続いています。



安心できる場所

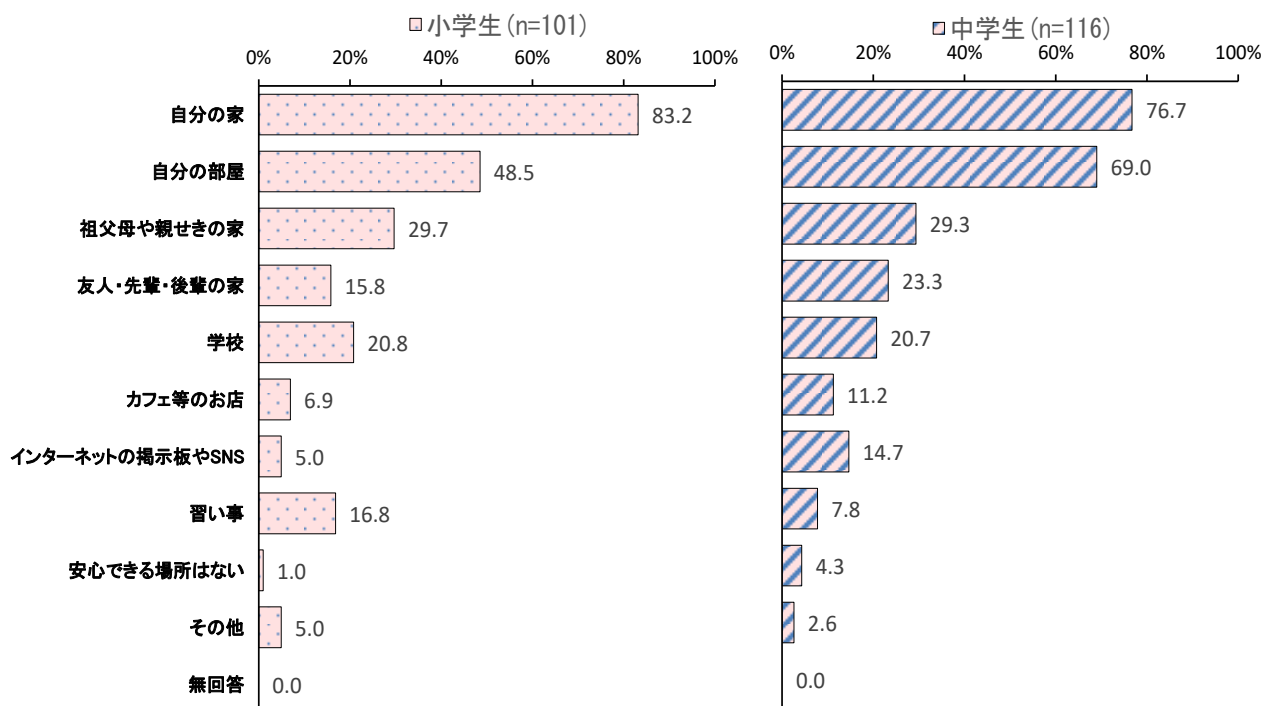
<市民調査>

安心できる場所についてたずねたところ、全体では「自分の家」が85.1%で最も高くなっており、「自分の部屋」が30.6%と続きます



<小・中学生調査>

小学生では、「自分の家」が83.2%と最も高く、次いで「自分の部屋」が48.5%、「祖父母や親せきの家」が29.7%、「学校」が20.8%となっています。中学生では「自分の家」が76.7%と最も高く、次いで「自分の部屋」が69.0%、「祖父母や親せきの家」が29.3%、「友人・先輩・後輩の家」が23.3%となっています。

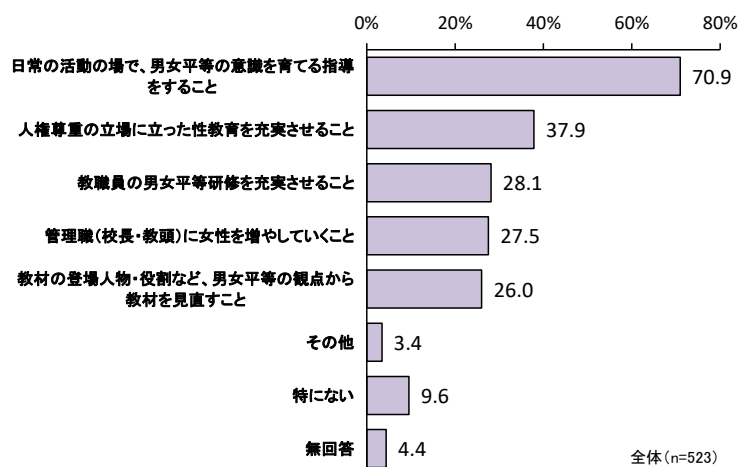


◆学校教育

男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れる必要があること

<市民調査>

男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れる必要があることをみると、「日常の活動の場で、男女平等の意識を育てる指導をすること」が70.9%で最も高く、「人権尊重の立場に立った性教育を充実させること」が37.9%で続いています。

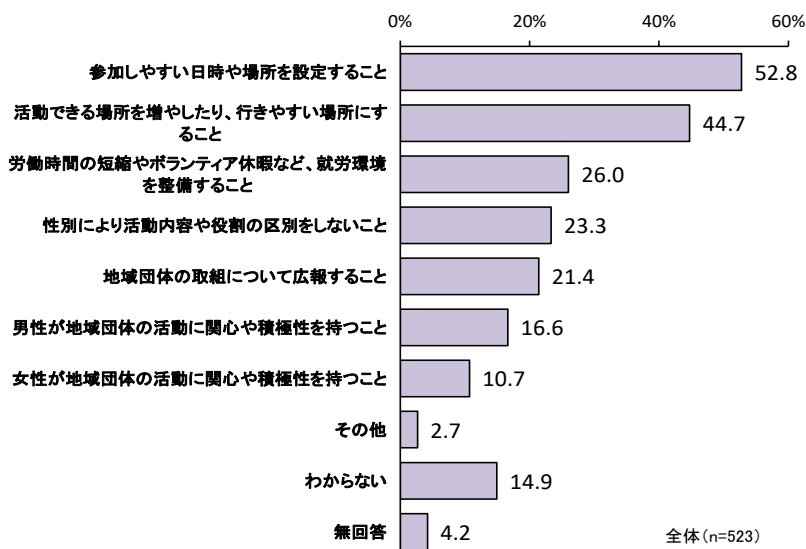
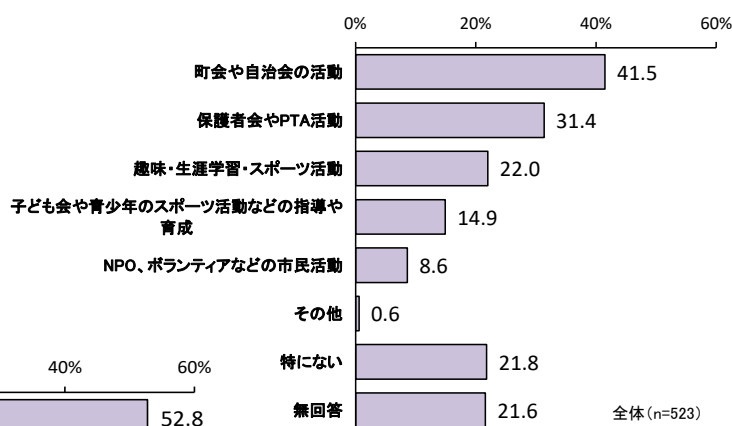


◆地域での活動

地域での活動

<市民調査>

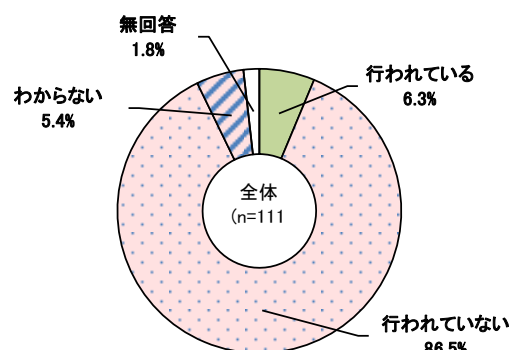
参加したことがある地域での活動をみると、「町会や自治会の活動」が41.5%で最も高く、「保護者会やPTA活動」が31.4%で続いています。



男女とも地域活動に参加しやすくするために必要なことをみると、「参加しやすい日時や場所を設定すること」が52.8%で最も高くなっています。

<市民団体調査>

市民団体において、性別による役割分担の有無をみると、「行われていない」が86.5%、「行われている」が6.3%となっています。

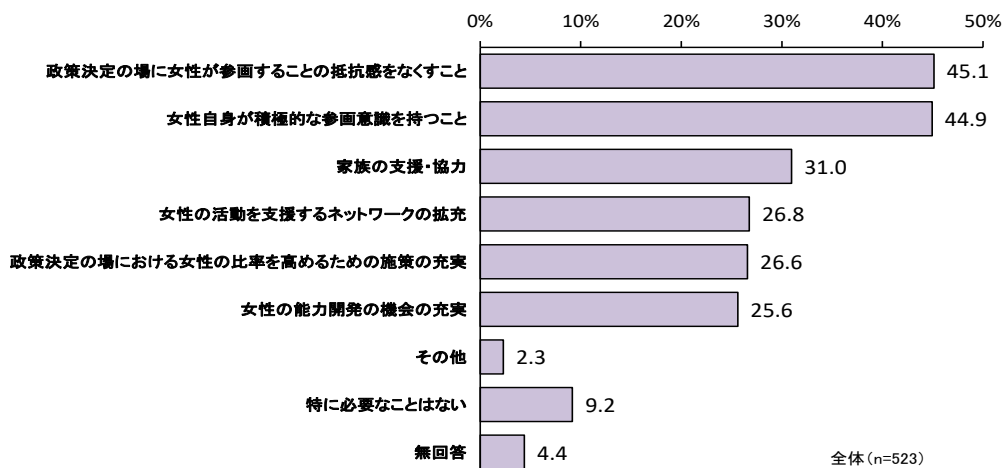


◆草加市の政策決定の場への女性の参画

市議会や審議会等への女性参画推進のために必要なこと

<市民調査>

市議会や審議会などへの女性参画推進のために必要なことは、「政策決定の場に女性が参画することの抵抗感をなくすこと」が45.1%で最も高く、「女性自身が積極的な参画意識を持つこと」が44.9%で続いています。

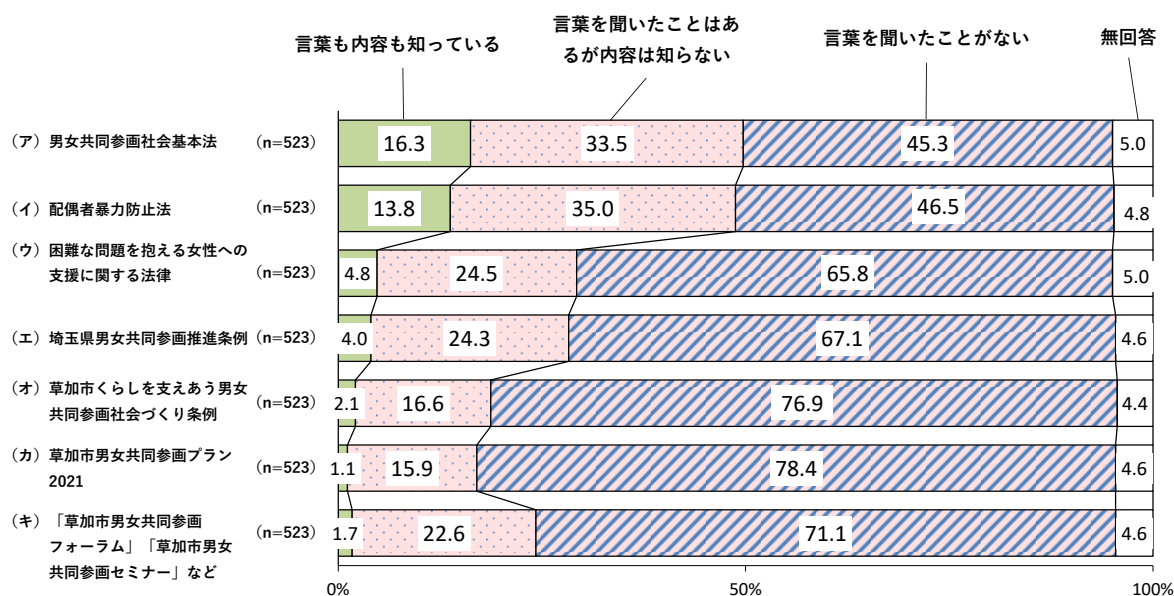


◆男女共同参画推進に関する行政施策

男女共同参画推進に関する法律や計画、情報などの認知度

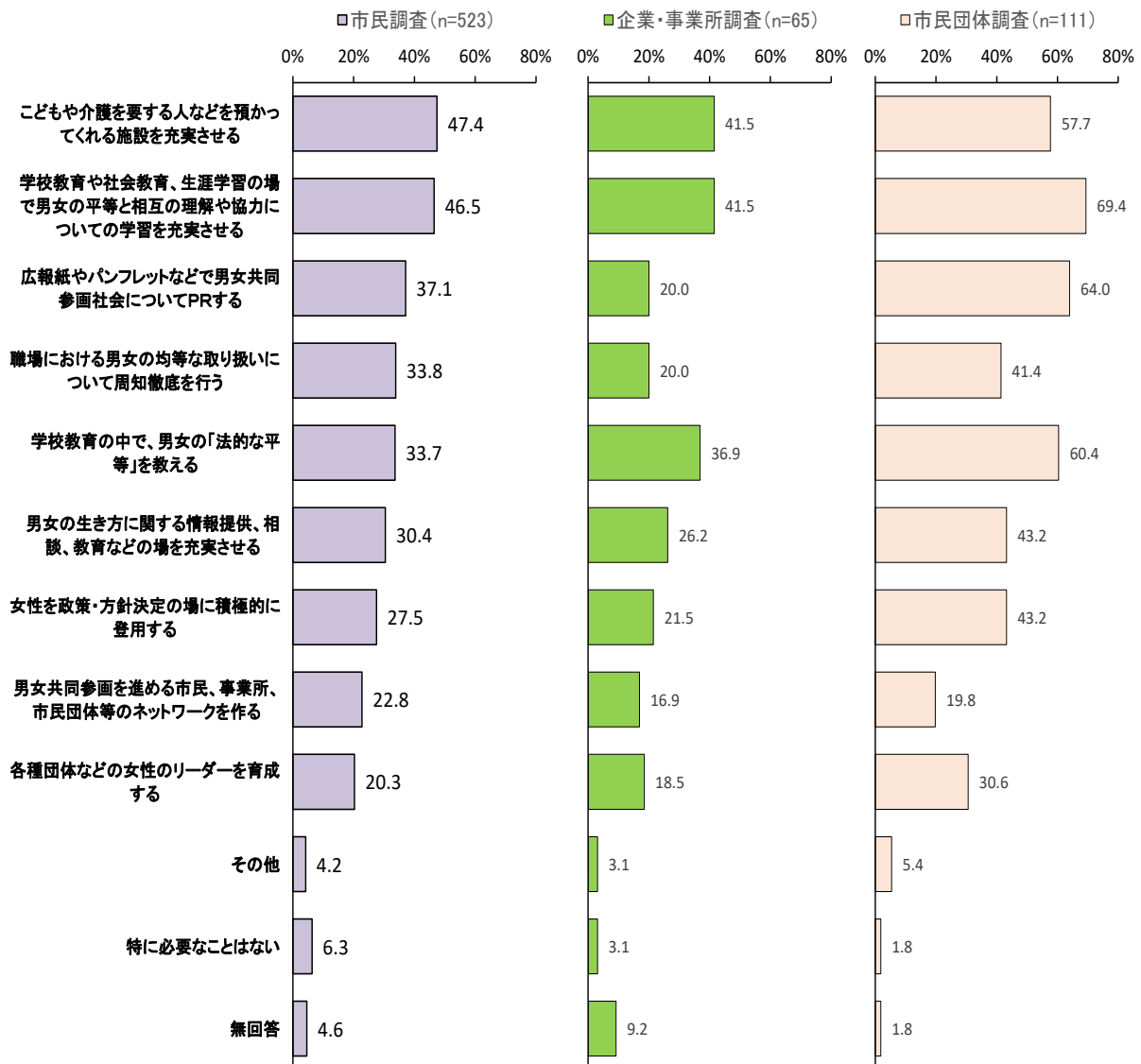
<市民調査>

男女共同参画に関する法律や計画、情報などの認知度をみると、『(ア) 男女共同参画社会基本法』『(イ) 配偶者暴力防止法』については「言葉も内容も知っている」が1割以上となっているものの、『(ウ) 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律』『(エ) 埼玉県男女共同参画推進条例』『(オ) 草加市くらしを支えあう男女共同参画社会づくり条例』『(カ) 草加市男女共同参画プラン 2021』『(キ) 「草加市男女共同参画フォーラム」「草加市男女共同参画セミナー」など』については「言葉を聞いたことがない」が6割以上となっています。



男女共同参画推進のために草加市が力を入れるべきこと

男女共同参画推進のために草加市が力を入れるべきことについて、市民調査では、「こどもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実させる」が47.4%で最も高く、企業・事業所調査では、「こどもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実させる」「学校教育や社会教育、生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」が41.5%で最も高くなっています。市民団体調査では、「学校教育や社会教育、生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」が69.4%で最も高くなっています。



令和7年3月

草加市男女共同参画アンケート 調査結果報告書（概要版）

発行 草加市 総合政策部人権共生課

〒340-8550 埼玉県草加市高砂一丁目1番1号

電話：（048）922-0825

F A X：（048）927-4955

ホームページ：<http://www.city.soka.saitama.jp/>
